

令和元年度前期学校評価分析

自己評価から

1 教育目標について

学校教育目標は適切と評価できる。どの項目も前年度より肯定的な回答が上回っており、「めざす豊の子像」や「めざす教師の姿」及び楡形地区小中学校の「目指す人物像」が日常の指導や学年学級経営の場で意識されている。今後、学校便りや学年通信を始め、開放日・行事等を通してもさらに理解を深めてもらえるよう努めることが大切である。

2 学校経営・組織について

概ね良好と判断できるが、個々の職員の危機管理マニュアルの理解については課題が残る。学校安全に対して正しい備えと適切な行動がとれるなど、マニュアルの実効性を高めていけるように努めていく必要がある。また職員会議は能率的に進められているが、その反面、教職員間の意思疎通が徹底されていないという意見も出された。学校全体で同一歩調で取り組んでいくための共通理解が必要である。

3 学習指導について

「豊小学びプラン」や「家庭学習頑張ろう週間」が年々定着し、学力の向上につながっている。児童の学習意欲のさらなる向上のために、教材研究と学習規律を身につけさせていく必要がある。また、校長に自主学習ノートを提出することが励みとなり、積極的に自主学習に取り組む児童が増えていることはとても良いことである。今後も学校全体で歩調を合わせ、継続と徹底を図っていきたい。

4 道徳について

教科や他領域との関連を考慮した道徳授業を進めること、指導に改善や工夫を行っている項目については、昨年度より向上している。単なる話し合いや読み物の登場人物の心情の読み取りに偏ることなく、質の高い実践が進められていると評価できる。児童の実態に応じて、「考え、議論する道徳」を今後も展開していくことが大切である。

5 特別活動について

各委員会、休み時間や放課後など、児童会本部を中心とし、学級や委員会などと連携した取り組みも行われている。しかし授業時数の確保から委員会活動は授業時間として設定されていないという、時数が少ない中での取り組みであるため、自主的な活動をするのは難しい、という意見が多かった。クラブ活動、も含め、地域の方々の御協力・御支援に支えられ、地域文化の伝承にもつながる活動もあるため、今後も工夫した取り組みを行っていきたい。

6 学校行事について

とても良好と評価できる。特に、「学校行事が保護者・地域との連携を保って運営されている」項目については、2学期に運動会や文化発表会等の学校行事も多くあるため、こうした教育活動を通して児童にどのような資質や能力の育成を目指すのかを明確にし、また共有することで、さらなる連携・協働を進めていきたい。

7 生徒指導について

全体的に良好と評価できる。「報告・連絡・相談」を密にし、全校体制で早期に指導、対応ができる職員間の連携ができています。学校全体で共通理解のもと今後も全職員で指導していく体制を取るよう努めたい。

8 生活指導について

あいさつに関しては、毎年のように言われている。児童会の取り組みのあいさつ運動の時には、しっかりあいさつできる場面もあるが、他の場面ではあいさつができていない児童も多い。あいさつはしているが気持ちがない子、気持ちがあるが言えない子、など評価は難しいところではあるが、「明るく元気なあいさつ」が豊小の課題の一つである。積極的なあいさつができるように、またあいさつは自己表現でありコミュニケーション力の基本であるという共通認識のもと、継続した取り組みを行っていきたい。

9 勤務

早朝から勤務したり、休日も学校に来て仕事をしたりしている職員もいる。昨年度から出勤退勤時間を入力することで、働き方改革の一つに取り組んでいるわけであるが、学校における働き方改革が実現できるよう、環境整備を整えていく必要がある。

* 教員の一日当たりの学内勤務時間（H28年度調査より。（）内はH18年度調査値）

【平日】

校長 10:37（10:11） 教頭 12:12（11:23）

教諭 11:15（10:32） 講師 10:54（10:29）

養護教諭 10:07（9:38）

【土日】

校長 1:29（0:42） 教頭 1:49（1:05）

教諭 1:07（0:18） 講師 0:56（0:17）

養護教諭 0:46（0:07）

* 1週あたりの学内総勤務時間

校長 54:59（52:19） 教頭 63:34（59:05）

教諭 57:25（53:16） 講師 55:18（52:59）

養護教諭 51:03（48:24）

10 PTA・地域社会

昨年度よりも改善傾向が見られる。今後も保護者や地域からの意見や要望を把握したり、日常の活動の中で地域の意見や要望を吸い上げていくことが大切である。その中で、家庭・地域と協働して子どもを育てていく連携体制づくりを行っていきたい。

児童アンケートから

低学年の結果より

携帯電話・スマートフォンを持っているかに関する2項目を除いた全22項目のうち、昨年度より5%以上改善した項目が、18項目(1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 20, 22)あった。また4と3を合わせた肯定的な回答で90%を超えたものが20項目(19, 20以外)であった。特にその中でも顕著な項目が「8 クラスはみんななかよしだと思いますか」(4と回答した児童が30%増)の項目で、教職員の一人一人の児童への丁寧な対応や学級力アンケートを活用した取り組みの成果であると思われる。また「15 困ったことがあったときに先生に話していますか」(4と回答した児童は18%増)に関しては、学校内の児童の人間関係(対子ども, 対教師)も良い方向にあると考えられ、困ったことを誰かに話せる体制づくりが進んでいることがうかがえる。「16 本を読むことが好きですか」(4と回答した児童が19%増)に関しては、本校低学年児童の読書意欲は非常に高い傾向にあるといえる。

一方、携帯電話やスマートフォンを持っている児童は、昨年度より6%増加したが、使い方に関する家庭での約束を決めていないと回答した割合が26%増加している。保護者への危険性の周知や安全な使い方の指導が望まれる。

高学年の結果より

低学年同様、携帯電話・スマートフォンを持っているかに関する2項目を除いた全22項目のうち、項目1, 2, 3, 6, 7, 8, 10に関しては、4と回答した児童は減少してはいるものの、その分、3と回答した児童が増加しており、4と3を合わせた肯定的な回答をした児童は昨年度とほぼ同程度とみることができる。

「4 授業中、先生に対して質問がしやすいですか」「5 授業中に発言をしますか」の項目に関しては、昨年度より肯定的な回答をした児童が減少している。日常の授業の中で今後も言語活動の充実を図るとともに、児童同士で学びあったりする場面を設定することも必要かもしれない。

「11 挨拶をしていますか」に関しては課題が残る。児童会で取り組んではいるが、なかなか児童の日常生活に定着していないと感じる場面も見られる。今後も児童会を中心とした継続的な取り組みが必要であると思われる。